

# 千代鈴大神楽全勝

# 紙相撲新聞

第161回本場所  
四～五日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

### 四季嶋、綱乃花、西神門も好調

### 平幕では霧ヶ浜勢が幕尻で全勝

【第百六十一回本場所四日目～五日目】

1月27日に第161回本場所四日目と五日目が開催され、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇四季嶋、平幕の若佑、若柱の5人が5戦全勝とした。関脇綱乃花と平幕の鬼ヶ嶽、龍不動は4連勝としたが、五日目に初黒星を喫した。

今場所3横綱で唯一の出場となった千代鈴は三日目までまったく危なげない相撲を見せていたが、四日目の宇治家戦は組手悪く取り直し三度目の相撲でヒヤッとさせた。

五日目の初顔の夢ノ花との一番では「花！しっかり行け！」との香具山親

方の声援に動じることなく完勝して5連勝とした。このまま白星を積み重ねていく勢いだ。

悲願の横綱昇進に挑む大関大神楽も早い相撲で初日から3連勝。四日目の喜乃郷に対しても早い相撲でこれを退けた。ところが、五日目の勝ノ川戦では左を差して前へ出るも勝ノ川に土俵をうまく回られ、前のめりになって行司の軍配が勝ノ川に上がる。

すぐさま土俵検査役から「勝ノ川も土俵を割った！」との物言いがつき協議となった。ビデオ係が両者の取組を念入りにチェックした結果、大神楽が土俵につくのと勝ノ川が出るのが同時との判定で取り直しとなる。大神楽としては命拾い。取り直しの相撲は気合いを入れ直して5連勝を飾った。



↑五日目、千代鈴は筆頭に番付を上げてきた夢ノ花と対戦。香具山親方の檄を背になんとか爪痕を残したかったところだが、横綱の出足の前に為す術がなかった。

↓五日目、期待の勝ノ川が大神楽に挑戦。取り直しの一番は大神楽が寄り切った。



今場所は4関脇の大関争いが注目点の一つだが、その中で四季嶋だけが土つかずの5連勝とした。朝日松理事長が「関脇で優勝したら大関に昇進させる」との談話が表に出たことで関脇陣の目の色が変わってきたような気がする。

四季嶋は先場所8番勝ち、勝間田親方が「うちの部屋で誰が大関を狙える器なのか？」と悩む中で、四季嶋が着実に実力をつけてきた感じだ。このまま星を落とさずに好調の横綱大関と並んでいけるか、大いに期待したい。

朝日松理事長期待の綱乃花は終盤まで全勝で行き詰まったが、五日目に宇治家ののど輪に不覚を取り、1敗を喫してしまっただけ。初日黒星スタートとなった西神門は二日目を降は初日の負けが嘘のようには力強い相撲で4連勝を飾り、ここからさらに星を伸ばしていくこととだろ。

4関脇の中で見所が古総鉄甲が本調子になって不調だった剛勇山に連敗し、2勝3敗と黒星が先攻する形となった。期待の若手だけに、早く調



剛勇山○(寄り切り) ●鉄甲



西神門○(寄り切り) ●烏帽子



宇治家○(押し倒し) ●綱乃花



四季嶋○(押し倒し) ●喜乃郷

を戻してほしいところ。



鬼ヶ嶽●(押し倒し) ○大渡海

一方、若佑は駒波、剣将に勝って5連勝。若柱もこれにつられた。2人とも幕尻まで下がり後がない番付だ



剣将●(寄り切り) ○若佑



柱○(引き落し) ●龍不動

今場所は八日目、九日目に北海道から霧ヶ浜親方が国技館に駆けつける予定で、それまで白星を続けることができるか。

今場所はここまで鉄甲を覗く関脇以上の上位陣が好調。それに加え、大関大神楽の横綱挑戦、関脇陣の大関獲り。さらには、若佑、若柱、鬼ヶ嶽などの平幕陣の相撲からも目を離せず、中盤、後半戦がとも楽しみな場所となっている。次回は2月18日の開催予定、乞うご期待。(錦風)

## 十兩は桃乃洲と柏陵山が全勝

十兩では初日から三連勝の好スタートを切った4力士のうち、桃乃洲と柏陵山が土つかずの5連勝とし、葵盛は1敗に虎ノ國は2敗とそれぞれ後退した。

今場所は幕内から陥落して三枚目の桃乃洲、四日目は同じく幕内から陥落した鹿麒麟と対戦し、のど輪から押し倒しに破ると五日目は

場所前の稽古で見えたのが鬼ヶ嶽と若佑。その勢いそのままに、鬼ヶ嶽は初日から4連勝したが、五日目に大渡海にお株を奪われる右のど輪で敗れて5連勝とはならなかった。